

平成30年度 保護者懇談会 報告	
日 時	【1回目】平成30年7月 7日(土) 午後3時から4時30分まで 【2回目】平成30年7月31日(火) 午後6時から7時30分まで
場 所	滑川中学校
出席人数	(1) 保護者等 【1回目】15人 【2回目】4人 計19人 (2) 事務局 【1回目】教育部長【2回目】教育長 学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員
内 容	(1) あいさつ (2) 学校適正配置基本方針の概要について (3) 児童生徒数の将来推計について ()は学級数 (10年後) 滑川小 234人(8) 田尻小 372人(12) 宮田小 267人(12) 滑川中 260人(9) (20年後) 滑川小 177人(6) 田尻小 281人(12) 宮田小 201人(6) 滑川中 196人(6) (4) 意見交換
【1回目 (4) 意見交換】	
<p>(意見)</p> <p>子どもたちが少なくなってしまうと驚いている。 統合になったら学校が遠くなって時間もかかり、帰りが遅くなるのも心配。 兄弟もなく、近所に同年代の子どもがいないので、学校には友達がたくさんいてほしいので、人数はある程度いた方がよい。</p> <p>(意見)</p> <p>小学生がいないので、学校のイメージがわからない。幼稚園と違って自分で通学するので、通学時の安全性や事故などが心配。</p> <p>(質問)</p> <p>滑川小学校に入学予定だが、滑川小は集団登校を行っているのか。小さい子を歩かせると心配がある。 再編した時には、通学距離がどのくらいになるのか心配。</p> <p>(意見)</p> <p>学校によって特色があると思うので、統合によってどうなるのかと思う。 通学距離が延びることが心配。</p> <p>(事務局)</p> <p>学校は勉強の場だが、子どもたちの安全が前提。滑川小学校では集団登校は行っていない。田尻小でも行っていない。学区の状況やPTAとの話し合いによって決めている。 小学校では、日光市の小学生が下校途中で殺害された事件を教訓に、登下校中にできるだけ1人にしないように取組が始まった。市内の小学校では全ての児童が一斉下校するこ</p>	

とは時間割の関係で難しいが、低学年は一緒に帰している。

学校に対しては、地域の方が協力してくれている。また、PTAの交通安全母の会など、献身的に取り組んでくれている。

先日の大阪での地震の際、通学途中の児童が塀の倒壊に巻き込まれた事故などはあつてはならない事故だと思っている。学校や教育委員会では、通学路上の危険物の点検などにも取り組んでいる。

(意見)

登校時に車での送りが増えている。自分の子ども時代には考えられない光景。学校からの距離に関係なく、危険なことも教えていかなければならないと思う。子どもたちだけで登下校することも大事だと思う。

退職された地域の方などに見守りなどをお願いして、安全に登校できるようにしていけばいいのではないかと思う。

(意見)

転入したばかりである。宮田小学区との境で、周囲は宮田小に行く子が多い。1人だけで学校に行くのは不安なので、集団登校があるとよい。

再編は、小学校同士などの横のイメージがあるが、縦のイメージでも考えてほしい。保幼小連携の取組はよいことだと思うが、近い幼稚園と小学校の交流ばかりだと、違う小学校へ行く子がかわいそうに思うこともある。

複数の小学校から中学校へ進学するルートがあるとよいと思う。

統合して、児童クラブの定員が減ったり、入れなくなったりしては困る。

(教育部長)

縦の連携が大事だといわれているのは、小1プロブレムや中1ギャップなど、集団が変わるときに戸惑いがあるから。保幼小連携に県内で最初に取り組んだのが日立市。

再編を考えると、条件を整えば、選択肢の一つとなるのが幼少中連携。

児童クラブは教育委員会が行っている事業ではないが、小学校の中でやっているものなので、関係ないということではない。統合した場合に、2校分で30人×2というだけではなく、必要数を確保できるようにしたい。日立市では、子ども局と教育委員会は常に連携をとっている。必要量を増やすことや開設時間を延ばすことなどを検討している。安心してほしい。

(意見)

滑川小は、地域のボランティアの立哨がない。再編したときには範囲も広がるし、立哨当番の負担が増える。通学路が遠くなると、女の子は特に安全が不安。親子ともども負担が増える。

小中一貫という話も聞くが、9年間同じ仲間と一緒にいることになるので、トラブルがあったときに逃げ場がない。中学に上がったときに新しい出会いがあることもよいと思う。

(質問)

統合されると通学距離が延びる。不審者への対応はどのようにするのか。小学生の息子は、このひと月で不審者に2回遭った。周囲に大人はいなかった。

再編時期はいつ頃か。

市の人口減少対策の取組はどのようにしているのか。城里町(勤務地)は人口を増やす

取組をいろいろ行っている。日立市のことは聞こえてこない。
また、廃校になった場合、跡地利用について、どう考えるか。

(事務局)

再編時期は具体的には決まっていない。保護者の皆さんから、いつ頃なのかという質問は多く受ける。見通しが持てないことが不安の要因になっていると思う。現在検討している計画では、全体像と10年間の取組内容を示せるようにしたいと考えている。10年間の優先順位や具体的な案をお示しして、皆さんとともに決めていきたいと考えている。

決まってからどのくらいでできるのかということについては、他市の統合を例にすると、建物に手を入れる必要がなければ2年くらい、建物に手を入れる(増改築するなど)場合には5年くらいかかるのが一般的。建物のほかに、学校名や制服、PTA活動のすり合わせなど細かい決め事がある。平均的には3~5年程度かかるといわれている。

通学路の安全対策については、保護者、地域、学校からの情報を元に、道路の管理者や警察などの関係者が集まって危険箇所の点検・対策のための作業をプログラムとして行っている。再編により通学距離が長くなってしまった場合でも、再点検して危険箇所の対策は同じように行っていく。子どもたちを地域全体で守っていくことを進めていきたい。

国・県の通学距離の基準は、小学校で4km、中学校で6km。小学校の低学年では、徒歩で4kmは現実的な基準ではないと思う。

日立市では、楡形小の児童が直線距離で2.8km歩いているのが最長。再編を検討するときは、それを超えない程度で考えていきたい。場合によってはスクールバスの運行なども検討することになるが、財源や渋滞などの交通事情、バスの確保、歩かなくなることによる体力の低下などの課題もあるので、保護者の皆さんと話し合いながら決めていくことになる。

跡地の活用は、現状では白紙。地域のために、地域の皆さんと考えていきたい。

(教育部長)

人口減少対策は、いろいろ取り組んでいる。映画館でCMを流したりしている。広報の組織も変えて、情報発信の仕方も工夫する取組をしている。

教育や福祉サービスのメニューは豊富で、近隣自治体から引けを取るものではないにも関わらず比べられてしまう。それを上手に伝えていくにはどうするか。子どもが小学校に入学する時期が家を購入する一つの目安だが、その時にどうすれば日立を選んでもらえるか、市長をはじめ、全庁を挙げて取り組んでいる。

(意見)

子どもたちは、体育祭、文化祭など、イベントに向けて自発的に取り組んでいる。安心して中学校生活が送れていると、保護者からも分かる。

PTA活動に対する保護者の協力が少ない。父親の協力が非常に少ない。

地域には自警団活動などもあるが、高齢者が多くうまく機能していない状態。

統合跡地の利用について。子どもたちが集まる場所が少なくなっている。集まる場所がなくてお店にたむろしていたりする。卒業した学校の校舎が残っていると懐かしく思うこともある。校舎を壊すことになっても、そこで学んだことや地域を思い出せる形を何か残してほしい。

(意見)

子どもたちは、5クラスあってよかったと言っている。行事も盛り上がるし、クラス替

えにより、いろいろな子どもたちと交わることができた。クラスが少ないと、逃げ道がなく環境が変えられない。

地域は高齢者が多い。かみあい団地など以前は子どもが多かったが、今は数名しか小学生がいないので、立哨当番などが負担になっている。

地域の目が少なく、声掛けしてくれる大人が少ない。地域のパトロールをしながら情報収集し関係機関と共有している。地域との協力が難しいと感じる。自分自身は塙山学区から転居してきた。塙山学区は地域とのつながりが強かったのでギャップが大きい。

滑川中は海に近く、避難所としても相応しくない。滑川小の敷地で小中一貫校を考えてもいいのではないかな。

(教育部長)

学校の再編を進めるにあたっては、数合わせだけで進める考えはない。

現在のコミュニティは、前回の国体を契機にできあがった。小学校区単位で作っていった。

コミュニティごとの温度差もあるが、再編を契機にコミュニティの在り様も変化していくかもしれない。日立の町の在り様自体も変わっていくのかもしれない。行政全般にわたって、コミュニティが関わっているので、小学校区が変わることで変化していくのかもしれない。

(意見)

地域コミュニティを作るには時間がかかる。ここに引っ越してきて10年くらいだが、やっと関係ができてきた。

通学の問題が出ているが、ハードの部分は簡単なのではないかな。地域が真剣にやれば解決できるのではないかな。もう少し早く青写真を出してほしい。大きなビジョンを示してほしい。「10年以内に無くなるかもしれないが、分からない」では、家を建てる決断ができないし、「決まっていない」だけでは不安を煽るだけだと思う。

(教育部長)

学校の再編は、どこかで手を付けなければならない課題である。しかし、影響が大きいので、数だけではなく、保護者、地域、学校現場の意見を聞く作業を進めている。やり直しがきかないので、丁寧に進めなければならない。

今日のところは、イライラする部分もあるかもしれないが、忌憚のない意見を聞かせてほしい。

(意見・質問)

子どもが生まれたばかりだが、10年後には小学生になっている。その頃には、それなりの人数になってしまうのかなと思って聞いていた。自分は3キロくらいを通学していたので楽観している。

子どもが減ったら先生も減るのか。先生の数は維持して学級を増やしてほしい。先生の負担が大きいことが社会問題となっている。先生の負担を減らしていくにはどうしたらいいのか。子どもが減っても教員数を維持してもらえれば、先生方の負担感も減ると思う。

(教育部長)

1学級の人数の想定は現行ルールの通りで考えている。小学校の1、2年生は36人いると18人の2学級になる。1学級の人数には幅(18~35人)がある。

(事務局)

国のルールでは、小学1年生は35人、2年生以上は40人。茨城県では、それに加えて、小学校2年まで35人学級。それ以上の学年では、36人以上の学級が3学級以上あると4学級にできる。県でも、40人は多いという認識はしている。

中学校には教科ごとの配置基準があつて、学級数によって教科ごとの配置人数が決まっている。6学級が7学級になると、教科によっては教員の数が3人増える。この差は学校にとっては大きな差である。

(意見)

心配なのは、子どもの安全が守られるようにしてほしいということ。

人間関係を学ぶ上では、クラス替えが必要だと思う。子どもが小さいので、具体的なことはよく分からない。

以上

【2回目 (4) 意見交換】

(質問)

自分が通った学校が無くなってしまふことや、将来の子どもたちの学校が無くなってしまふことへの漠然とした不安がある。

どのような再編になるのか。最も早いところでは、いつ頃になるのか知りたい。

(教育長)

学校が無くなる漠然とした不安や寂しさは、どこでもあるのだろうと思う。

数合わせの再編はしないが、数を考えることには理由がある。現行では児童生徒数によって学級の数や先生の数が決まっているからである。南北に長い地形やきちんとした区割りによって学校が建てられたわけではなく人口が増えたところに学校ができてきたという経過、コミュニティとの関係など検討しなければならない。

話し合いをしている間にも子どもたちは減り、校舎も古くなる。校舎の耐震化や老朽化への対応なども優先して考えなくてはならない。建物(校舎)を建てるだけでも3年かかる。

(意見)

学校がどうなるか、話題に上る。滑川中が無くなるのではないかという想像が先行してしまう。

(教育長)

将来のこともあるが、今の子どもたちの環境についても考えながら取り組んでいく。

(事務局)

以前の勤務校では、教員の中にも統合のうわさを聞き、来年度から生徒の募集をしないのかと問う者もいた。不安からうわさになり、真実ではないことが一人歩きする。

懇談会でも、計画を早く知らせてほしいという話がたびたび出される。

リーフレットに示した内容を周知していくことが大切だと思う。

1学級しかないから必ず統合されるというものではない。どのような方法があるのかを知るために懇談会を行っている。

イメージができないとうわさが一人歩きする。計画案を早く示し、意見をいただく機会を設けたい。具体的にイメージできると、違った意見が出てくると思う。

(意見)

子どもが2歳半。まだ小さいので、学校の再編といってもピンとこない。懇談会は来なければならぬものと思って来たのに、少なくて驚いている。

(意見)

子どもたちが少なくなって統合されるのは仕方ないと思うが、話を聞かずに納得はできないと思って参加した。下の子どもあてに封書で案内が届き、学校からの案内はきいていなかったの、下の子どもの年代から再編されると思っていた。きょうだいで違う学校になってしまうのも困ると思っていた。

(教育長)

未就学児の家庭にはお知らせする方法がないので封書で送らせていただいた。

(事務局)

今後、素案などをお示ししていく場合、どのようにしたら伝わりやすいか。

(意見)

パンフレットには日立市のことしか書いていない。他の自治体のことが分からないと「日立市は何やってるの？」という思いになる。人口減少は日立に魅力がないからだと思う。他のところでも再編していることや統廃合してどうだったかななどの情報も知らせてほしい。

(教育長)

日立市は遅いくらい。日立市としてはしばらくの間、学校の統廃合はなかった。

人口減少への対策はいろいろ取り組んでいる。総じて県北地域は人口減少していて、学校の統合を繰り返している。同じ子どもに対して統合を繰り返すことは避けたいと考えている。安定する形でやりたい。

(意見)

統合したメリットを教えてほしい。実際は通学が遠くなるだけでプラスイメージがない。

(事務局)

他の自治体では、統合する場合は中間点に新しい校舎を新設することをルール化しているところがある。統合することで財政的なスケールメリットが生まれるので、その分でICTなどの設備を整えていくことなどは可能だろう。

(意見)

自転車通学が認められていないのはなぜか。通学が遠くなるなら、スクールバスを出せとは言わないが、自転車通学でもいいのではないか。坂が多いということはあるが電動自転車などもあるし、状況に合わせて交通手段も変化してもいいのではないか。

(事務局)

同規模の市と比較すると、日立市は学校が多い。土浦市立の中学校は8校、1学年5～7学級が普通。日立市は学校が多く規模にばらつきがあり、1学級の中学校もある。ひたちなか市も土浦市と同じくらい。

メリット・デメリットを考えると、人数が少ないほうが先生方も一人ひとりを見やすい。ほかにもメリットがある。デメリットを考えると、懇談会では部活動についての意見や質問が多い。子どもにとって部活動の比重は、大人が考えるよりはるかに大きい。人数が少ないと先生の数が少なくなり、部活を増やすと部活当たりの人数が少なくなる。選択肢が少なくなる。

市町村によっては強引に合併するところもある。

(意見)

滑川地区は海と山が近く坂が多い。今でも通学が大変。統合で範囲が広がると通学が心配。スクールバスの運行は財政負担があり、初めの数年は補助が出るが、その後は保護者や市の負担が出ると聞く。保護者の負担は増えてほしくない。

P T A活動をやってみて、地域コミュニティと学校の結びつきが重要になっている。中学校は2つのコミュニティと関わることになる。再編でどのように整理していくのか、同時進行で取り組まなければならないと思う。コミュニティの運営側も高齢化していて、20年後はどのように運営していくのか不安だ。

滑川中は、ここ数年で変わったと感じている。先生方の手厚いサポートがあったと思っている。子どもたちが素直にあいさつするようになり安心している。安定した学校運営がされていると思う。学校の運営面で教員の数は大事で、手厚い教育をしていく上で先生方にゆとりのある環境を作っていかなければならないと思う。

(意見)

子どもにとって学校は家庭以上にいろいろなことを学ぶところ。部活や友達、席替えなど学校生活のことで頭がいっぱい。自分に対する先生の評価も大きい。

学校が再編されて変わることは、親からすると、大きな学校に吸収されてしまう、地域が見捨てられるような気持ちになる。想定しうる再編のメリットをアピールしてほしい。

やりたい部活動があっても廃部になるかもしれないから、人数が多い部活動を選んでいった。試合の時にはバスも出してもらえらる。

少人数できめ細かく見てほしいと親は思うが、学級だけでなく委員会やクラブなどで仲の良い子と一緒にいられるなど、子どもは選択肢があったほうが良いと思っている。子どもに「滑川中が2学級になったら？」と尋ねたら、今より人数が増えたほうがよいと答えた。理由を尋ねると、いじめがあったときに同じメンバーで過ごすよりクラス替えがあったほうがよい、行事も楽しくできる。2学級で金・銀しかないよりも、4学級以上あれば張り合いがある。

きょうだいも少なく、近所にも子どもがいないので、子どもは大人数で集いたいと思っているかもしれない。気晴らしになったりするのかもしれない。

(事務局)

人数が少ないと目標となるモデルがなく、自分の将来を考えにくい。男女の偏りも極端。クラスマッチなども3年生には勝てない。行事の迫力も違う。中学生にはいろいろなモデルが必要で、その中から自分の道を探していくことができる規模が必要だと感じる。

(意見)

子どもたちは自分の日々の生活で精いっぱい。部活に入って他の中学校に気づく。全体像は見えていない。ある程度の人数があるほうが子どもは喜ぶ。反面教師もありお手本もあり、先生以外から教わることも見習うことも多い。

(事務局)

中学生では自分を変えたいと思っている生徒も多い。人格形成の時期でもある。子どもは素直な反面、残酷な部分もあって、人数が少ない中では序列を自分でつけてしまう。「勉強は〇〇さんが上、運動では△△さんにはかなわない」など。自分を変えたいと思ってもなかなか難しいようだ。いじめなどがあっても4学級くらいあれば対応できる。子どもにとって何がいいかと考えると、大きな母集団があって、その中で柔軟に学級編制できるといいのかなと思う。

(教育長)

思いつきであるが、3つの中学校を2つにして、どちらに行ってもいいとなったらどうする？学校が決まっていたほうがいだろうか。

(質問)

今でも駒王中に行けるエリアがある。

(事務局)

全ての学校は学区が決まっている。自由に選べる地域はない。

現在の滑川中学区は、滑川中ができる前は駒王中と日高中の学区だった。

新しい学校ができるときには学区について地域に説明するが、それまでの地域の繋がりから従前の学校に通いたいと強く希望する地域もある。話し合いを重ねる過程で申請があれば許可をするという形に落ち着いた。

(教育長)

小さいお子さんの保護者の方は、どのような学校なら安心だろうか。

(意見)

自身が小規模校の出身。小中学校は、ほとんど同じ顔ぶれだったが、いじめなどもなくて仲良くやっていた。少なくて逃げ場がないことは不安だが、大きすぎてもどうかと思う。親としてはきめ細かく見てくれたほうが良い。自分の子どもは、勉強よりも楽しく通ってくれたらいい。

(事務局)

メリットのアピールということについてお伺いしたい。どのようなことをメリットと感じるか。

(意見)

現状より設備がよくなることなど、分かりやすいほうがよい。人数が増えるなら交流事業をするなどでもいいと思う。

(意見)

子ども目線で考えてほしい。子どもにとって学校は、大人が考えるよりもはるかに大きい存在。教科学習は元より、交友関係や達成感、係活動などいろいろなことを学ぶのが学校。いろいろなことを吸収している。義務教育を卒業したら、一人前の大人として社会へ出ていくことになる。親は安全面に気を取られがちだが、一人の社会人を作る過程に学校がどのように影響するのかを意識してほしい。

(教育長)

通学の利便性などを考えて現状のままですと、学校が小さくなっていってしまう。人と人の相互関係なども薄まってしまう。どのように考えていけばいいだろうか。

(意見)

働いている親が多いので送迎するのは無理だ。自転車やスクールバスなど通学の足を確保することを検討してほしい。

大人は自分の母校がなくなることに抵抗を感じるが、子どもは大きな集団を喜ぶ。中学で田尻小の子たちと一緒にすることを楽しみにしていた。子どもは大所帯を望んでいるのかなと感じる。

(教育長)

本日はいろいろなお話を伺い、深めることができた。

うわさが先行しないように、周囲の方々ともお話をさせていただきたい。

以上

※ 始めと終わりのあいさつと資料の説明は、記録を省略します。